

# 芦安ファンクラブ通信

第24号  
春、夏号

NPO 法人  
芦安ファンクラブ  
南アルプス市芦安  
芦倉 1589-8  
事務局：(大滝)  
055-288-2531

## 山小屋の指定管理者に指定されました

「公の施設の管理に「指定管理者制度」を導入した地方自治法の一部を改正する法律が平成十五年六月に公布され、九月から施行されたことを受けて、地方自治体の公の施設にも、従来の管理委託に代わって指定管理者制度が適用されることになりました。

この制度の目的は、多様化するニーズにより効果的かつ効率的に対応するため、公の施設の管理に民間の能力を活用しつつ、サービスの向上をはかるとともに、経費の削減等を図ることです。

従来の管理制度では、地方公共団体の出資法人、公共団体、公共的団体が管理受託者として公の施設の管理を行うというものでしたが、地方公共団体の指定を受けた者が「指定管理者」として管理を代行するもので、指定管理者の範囲として特段の制約を設けないとしており、指定管理者として民間の事業者も含め、広く門戸が広がることになりました。

南アルプス市ではこの制度を受けて、新たに条例を制定し、この制度の運用に乗り出しました。指定管理者については公募によることが原則であるが、特に山荘、山小屋等で当該施設のみならず利用者の安全確保のためその周辺地域等に十分な知識が必要な施設の場合は、公募によらず指定管理者の選定が行うことができるとし、白根御池小屋、広河原山荘、



5月、連休の遭難対策に備え小屋に入るファンクラブ会員

北沢駒仙小屋(旧北沢長衛小屋)三つの山小屋を去る三月二十二日にNPO法人芦安ファンクラブを指定管理者として選定しました。

三つの山小屋の指定管理者に選定されるに当たり、当クラブでは、古くから大勢の登山者を迎えていた山小屋の歴史や先人たちが残してくれた知恵に学び、訪れる登山者の安全確保、自然環境の保全、山岳文化向上の最前線基地として機能することを山小屋の使命とし、管理に対する具体策を次のように構築いたしました。

- 一、南アルプスの登山や自然観察の安全確保と意義付けのための適切なアドバースや指導、積雪状況、登山道、気象等安全登山に関する必要な情報、高山植物の開花状況、野生動物の生息状況、地形地質等の自然情報の収集と提供を行う。
  - 二、災害や遭難事故への迅速な対応と適切な処置。
  - 三、自然保護に対するあらゆる活動。
  - 四、発生するし尿、ゴミ等はすべて現地より運び出す。
  - 五、登山者のニーズに適切に対応し、食事、販売物品等対価に十分見合ったものとする。
  - 六、情報提供、登山指導、接客等のソフト面のサービスは親切、丁寧に行い、サービスの均一化をはかり、安心して利用できる施設を目指す。
  - 七、社会情勢に見合った施設は、市と検討を重ねながら整備する。
  - 八、他の山岳地域との良好な交流により管理の向上を目指す。
  - 九、山岳文化振興のため各種活動。
  - 十、その他施設設置目的を達成するための適切な管理運営。
  - 十一、その他
- このような提案を示し、山岳地のあり方を市当局と検討を重ね良好な山小屋管理運営策を構築します。
- 本年四月一日から、この指定管理者制度が施行されます。各山小屋には当クラブ員の経験豊富な管理人が配置されていますので、他の模範となる管理運営が期待できますが、シーズン中は多忙のため、日本各地の山小屋情報に疎くなります。また、その性格上繁忙期が集中して人手不足に陥ります。メニューの検討、



居心地の良い小屋の運営を目指して！(白根御池より鳳凰三山を望む)

ゴミ処理、施設整備その他たくさん問題の発生が考えられますので会員の皆様方の情報提供、ご意見、手助け等が必要不可欠になってまいります。

私たちのNPOが管理する山小屋です、現場は勿論、一般会員、賛助会員その他大勢のご協力をいただいで、他の見本となるような山小屋管理を目指します。

芦安ファンクラブ 塩沢(久)記

平成十八年度特定非営利活動法人芦安クラブ定期総会開催

考り主力関とを今とてこそた角総とに業のへのし南制業れ分期活  
 にまなを係思精年思全のう。点会思取が紅の生て経ア度とまか総動平  
 しす事お者つ力度つ面事と百改のつ組計業協きい営ル受ししら会法成  
 ての業願のて的もて的業い年埋そてん画狩力甲くをプ託てた白が人十  
 くでをい寛いに盛いににう前計のいでさり部斐事目スが山。雲五芦八  
 だス下し大ま実りま協関もの画他ま是れツ門あを指のあ小今荘月安年  
 さケ記まなす施たす力しの標がです非てアでる確しモリ屋年に十フ度  
 いジにすごのしく。してで柱浮北。成いしは生認会デまの度お八アの  
 。ユ表。理でてさてもすを上岳功まへ心活し員ルす指のい日の特  
 ー示 解会いん い組。設し山 さすの身環ま一的。定大て六ク定  
 ルし と員きの き織 置ま頂 せ。協障境し同な 管き開時ラ非  
 のて ご及た事 たとしの た慎力害造た努小 理な催三ブ營  
 参あ 協びい業 いし 直 三 い重事者り。力屋 者事さ十定利

1) 特定非営利活動に関する事業

事業区分	事業名	事業内容	実施予定期日	実施予定場所	従事者数	受益対象者の範囲及び予定人数	事業形体	備考
登山基地の機能整備及び体制の構築	安全登山啓蒙活動及び山岳文化継承活動	第14回南アルプス芦安登山教室	2006/5/27～28	桃ノ木～ドノコヤ峠～芦安鉦山往復	20	参加者30	共催事業	南アルプス市
		第15回南アルプス芦安登山教室	2006/9/30～10/1	仙丈ヶ岳・栗沢山(南アルプス市)	20	参加者50	共催事業	南アルプス市
		南アルプス芦安山岳館における学習会への協力	2006/4～2007/3	山岳館及び周辺(南アルプス市)	10	参加者50	共催事業	南アルプス市
	山岳施設の適正な運営活動	登山道の整備及び旧道の踏査実施	2006/6～2006/10	南ア山岳地域(御池尾根コース、ドノコヤコース)	30	通行登山者	単独事業	南アルプス市
		市営広河原山荘管理業務への協力	2006/6～2006/10	南アルプス市 広河原	30	来訪者及び南アルプス市	単独委託事業	南アルプス市
		市営白根御池小屋管理業務	2006/6～2006/10	南アルプス市 白根御池	50	来訪者及び南アルプス市	単独委託事業	南アルプス市
地域活性化	南アルプス市開催イベントへの積極的な協力	市営北沢駒仙小屋管理業務	2006/6～2006/10	南アルプス市 白根御池	20	来訪者及び南アルプス市	単独委託事業	南アルプス市
		第4回芦安新緑祭へ協力	2006/5/3	南アルプス市	10	参加者及び南アルプス市	協賛事業	南アルプス市
地域活性化事業	南ア市開催イベントへの積極的な協力	市観光キャンペーンへの協力	2006/5～11	南アルプス市(夜叉神)	20	参加者及び南アルプス市	協賛事業	南アルプス市
		南アルプス開山祭へ協力	2006/7/1	南アルプス市	20	参加者及び南アルプス市	共催事業	南アルプス市
	地域文化活動への協力	キタダケソウ観察会	2006/7/1～2	南アルプス市	20	参加者及び南アルプス市	共催事業	南アルプス市
		芦安中学校夏季登山学習へ協力	2006/7/?	南アルプス市(鳳凰三山)	5	参加者及び南アルプス市	協賛事業	南アルプス市
		地域文化の掘起と伝承	2006/4～2007/3	南アルプス市	30	南アルプス市芦安	協賛事業	南アルプス市
		地域特産物開発と充実	2006/4～2007/3	南アルプス市	20	南アルプス市芦安	単独事業	南アルプス市
		生き甲斐ある生活環境づくりへの支援	手打ちそばを通じた交流語り部組織の充実	2006/4～2007/3	南アルプス市	10	南アルプス市芦安	単独事業
	障害者紅葉狩ウォークへの協力	2006/10	南アルプス市 白鳳溪谷	15	参加者及び南アルプス市	協賛事業	主催団体	
環境保全	高山植物保護活動	登山道整備による群生地保護及び植生調査協力	2006/6～2006/10	南アルプス市 山岳地域	30	南アルプス市	単独事業	環境省 JAFPA
調査研究	雷鳥調査	南アルプス北部における生息調査へ協力	2006/6～2006/10	南アルプス市付近 山岳地域	20	全国	協賛事業	信州大学
及び情報発信	情報発信及び交流	組織交流やインターネットによる情報交換	2006/4～2007/3	全国	5	全国	単独事業	
	情報発信	FC通信の発行	2006/4～2007/3	南アルプス市	10	全国	単独事業	

延べ人数 395

2) 収益に関する事業

整備登山基地の機能構築	山岳施設の適正な運営活動	市営広河原山荘管理業務	2006/6～2006/10	南アルプス市 広河原	480	来訪者及び南アルプス市	単独委託事業	南アルプス市
		市営白根御池小屋管理業務	2006/6～2006/10	南アルプス市 白根御池	600	来訪者及び南アルプス市	単独委託事業	南アルプス市
		市営北沢駒仙小屋管理業務	2006/6～2006/10	南アルプス市 白根御池	350	来訪者及び南アルプス市	単独委託事業	南アルプス市

延べ人数 1,430

# 第十四回

## 南アルプス芦安登山教室

### 春のドノコヤ峠から

#### 芦安鉱山を訪ねる

芦安ファンクラブでは歴史を学び、文化を継承していくことを重要な方針としてさまざまな活動を展開しています。

五月二十七日〜二十八日に実施された今回の登山教室は、大正から昭和の中頃まで芦安地区の産業の中核をなした芦安鉱山を訪ねることになりました。会の有志は芦安ファンクラブ設立間もない七年前に訪れました。道は雑草が生い茂り、かつてのルートはほとんど消えていました。残された石垣や切り株が僅かに道を教えてくれました。ドノコヤ峠には朽ち果てた立ち木に僅かに判読できる指導標が残されていました。奈良田に至る道はなく、地図と磁石を頼りに下り芦安鉱山跡に到着、住居跡と思える棚田状になった石垣や敷地跡の平坦地に、茶碗や生活用品が埋もれ往時を忍ばせてくれました。

このことがきっかけとなり、芦安鉱山の存在が多くの人に認知されることになりました。中でも、芦安小学校では分校に注目し、事前学習を行い「ぜひ訪れてみたい・・・そんな要望を受けたファンクラブでは、精力的に登山道整備に取り組み、安全で快適な登山道を造り子供たちの夢を実現に導きました。「この道をこのまま最後まで終わらせたくない」そんな思いから今回の登山教室につながりました。

研修会では、芦安鉱山が閉山になるまで働いていた日原 実さんやこの登山教室の開催を知って、鉱山で生まれ、小学生のころまで生活していた、北杜市の

武藤さんご兄弟も参加で、今まで知られていない鉱山の生活の様子を伺うことができました。

生活物資は奈良田から調達し、生活は豊かで充実していた、鉱山での結婚や出産の話、冬暖かく、夏は涼しく過ごしやすい生活は、小さいけれど連帯感があった事など、画一的な現在社会が失ってしまった大切な何かが残されていたのではないのでしょうか？



かつての鉱山の生活ぶりを語る日原実氏

鈴木山梨森林管理事務所長のお話から、森林は水源涵養、一酸化炭素の固定、土砂災害の防止等、全体で七十兆円を超える恵みを私たちに与えてくれていることを知り、何気なく見過ごしていた森たちに改めて感謝する機会を与えていただきました。

二日目はあいにく強い雨の中での集合でしたが、登山口に着く頃には、雨も上がり市内の有志の参加もあり総勢五十二名が四班に分けて新緑に包まれながら出発しました。「自分達で整備した



森林の恩恵や大切さをわかりやすく解説してくれた鈴木所長

登山道を歩いてもらっている「そんな満足感がスタッフのみんなにありました。」

展望の利かないドノコヤ峠から順調に鉱山跡に到着、ここで生まれ、二歳まで生活していた武藤さんが、思い描いていた住居を探し当て、感慨深げに思いをはせていた姿が印象的でした。

棚田状の石垣が積まれた住居跡や、土壘に囲まれた火薬庫にはダイナマイトの箱が残されているのを見て、皆歓声を上げていました。塞がれた鉱山坑では当時の仕事ぶりをうかがい知ることが出来ました。残土のブリの斜面は厳しい環境のため四十年間植物を寄せ付せず、守り神であった祠は朽ちずに残る、様々な物に時間は風化差をつけながら過ぎていったのでしよう。

分校跡地まで戻り、今は背の高くなつた木陰で、鳥のさえずりを聞きながら昼食を終えて、下山の頃には天気も回復に向かい、西の尾根に広河内岳や大唐松岳

が、ドノコヤ峠に着く頃には雲の合間に間の岳も姿を見せ、足取りも軽く全員無事に下山できました。

今回の登山教室は目指す山の頂上はなく、先人たちの歴史と文化に彩られた生活を実感する事でした。こんな形の登山教室もあることを芦安ファンクラブが示したことになります。

芦安ファンクラブ 塩沢裕子 記



火薬庫跡や抗口付近を散策する参加者



### 安全登山祈願し、つる払い

### 南アルプス開山祭開かる

南アルプスの開山を告げる、二〇〇六南アルプス開山祭が七月一日午前十時から、登山基地広河原の情報センターアルペンプラザ前の広場で実施された。当日はあいにくの空模様で、残念ながら北岳は雲の中だったが、マイカー規制初日で、甲府・芦安方面から今夏初めて入山してきた多くの登山者や関係者が見守る中で、盛大な開山祭が開かれた。

この開山祭は、南アルプスの開山期に先駆者の偉業に感謝し、入山者の安全登山、山岳観光の活性化を祈念して、毎年開かれていたもの。当日は南アルプス市長石川豊氏のあいさつ、来賓の祝辞や紹介に続いて、南アルプス開山の祖、名取運一、ウエズン、天野久の三人のレリーフの前で、先駆者をたたえ、遭難者の霊にささげる献花が、参加者全員の手で行なわれた。



続いて、芦安中学生による献歌合唱があり、北岳の歌、雪山讃歌が南アルプスの山々にこたえました。次に、勇壮な夜叉神太鼓が演奏され、参加者の大きな拍手をあびた。



そして最後に、開山セレモニーのクライマックスとして「つる払い」の儀式が行なわれた。このつる払いは、開山と案内人の使命感（現在では登山道整備）を表現し、切ったつるの飛び跳ねる動きにより悪霊への威嚇、排除、山の清めを意味するもの。

今年の案内人は、芦安地区区長の伊東隆雅氏、従者に夜叉神観光協会の名取昭三氏、芦安ファンクラブの井口功氏があつた。案内人の口上のもと、斧がふりおろされ、束ねたつるを切り払った。そうして開かれた門を登山の安全を願いつつ、参加者や登山者が次々と通り抜け、今年の開山祭も盛会のうちを終了した。

アルペンプラザの裏手では、芦安そぼの会の「甲斐ヶ峰庵」による手打ちそばがふるまわれ、いつもながらの素朴で心のこもった手づくりの味が好評だった。

芦安ファンクラブ 大滝 記

### キタダケソウ観察会に

### 参加して

依田 正

私は、芦安ファンクラブに入会させていたとき、まだ二年目、北岳に登るのも今回が初めてでした。キタダケソウも見るのは初めてです。登山の経験も無く、二〇〇四年一月三日の早朝、夜叉神峠から朝日に赤く染まる北岳の姿を見ていつかは登ろうと思ひ、やっと登れるチャンスをつかみました。スタッフとは名ばかりでまったくの初心者、一日目は、皆様に迷惑をかけてはいけないという気持ちで広河原から御池小屋まで登りました。登るのに必死で草花の名前など覚える暇はありませんでした。



雪が多く急斜面の大樺沢雪渓を登る

途中の休憩の時、スタッフの清水さんより「金目の坂」の話が聞きました。昔の人はヘリコプターも使わないで重い荷物を背負い御池小屋まで食料や資材を人力で運び、最後の山を登りきらな

ければお金が貰えないという話でした。その仕事を中学の時からアルバイトで行っていたと聞きびっくりしました。「金目の坂」に登り終えやっと御池小屋に着きました。始めて見る御池小屋は、山小屋というよりホテルの様でした。夕食を食べ終わり室に戻り参加者と一緒にお酒を飲み、山の話、キタダケソウの話聞き一日目は床に入りました。二日目は五時起床、朝食を食べ六時に出発。空はいまにも雨が降りそうな天気でした。大樺沢に着き、いよいよアイゼンを付けて雪渓を登る、これも初めての経験、何か山男になったような気分になりました。山頂に近づくとつれて天気はだんだん悪くなり、八本歯コルに着いた時は風雨が強く、風で飛ばされそうになりました。それでもクロコリが咲き、トラバースの所には、キタダケソウが咲いていました。初めて見るキタダケソウは、ただ感激、感激でした。三島市から参加された御主人は「三十年間の念願が叶った」と喜んでいました。キタダケソウに「はじめまして」と言う参加者もいました。菓子作りのために「実物を見たい」と登った「清月隊」。環境省のお二人。皆、感激してくれました。風雨の中の登山で皆疲れていても一瞬疲れが飛んでいきました。キタダケソウを見るために苦労して登り、山の上で見るからこそ肌で感じた感激。これからも体力づくりに励みスタッフとして山の勉強をして、皆様の手助けが少しでも出来るように頑張りたいと思います。最後に来年の開山祭の時には美味しいキタダケソウのお菓子が食べられることを楽しみにしています。スタッフの皆様ご苦労様でした。

※キタダケソウ観察会参加者からのありがたい声です

**観察会、サポート有難うございました。**  
南アルプス市 鶴田 幸彦

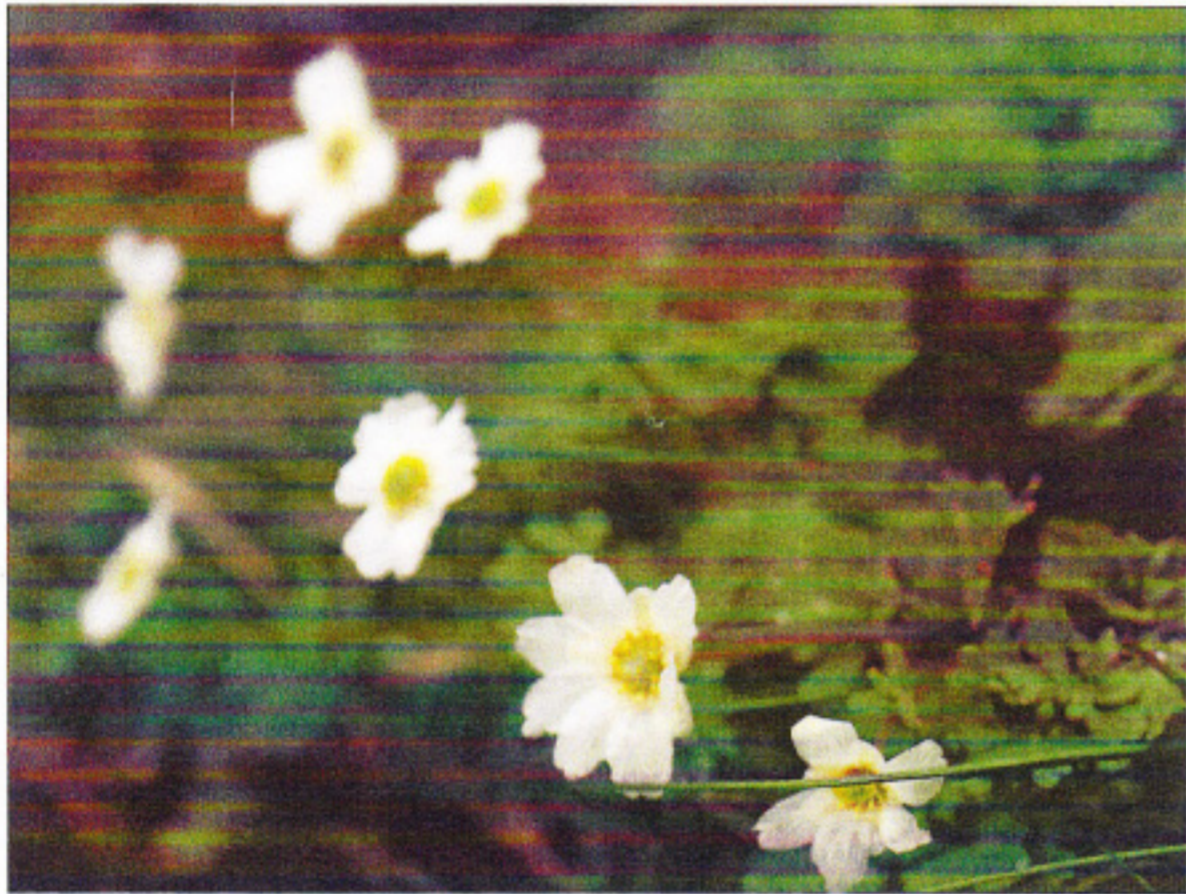
過日のキタダケソウ観察会に参加し、スタッフの皆さんにサポートを頂き有り難うございました。流失した棧橋地点での渡渉確保等、感謝、感謝です。

山岳情報で(県警、航空写真)での大樺沢の雪渓に「ビビリ」経験の無いプレッシャーを感じましたが、AFCの会員の指導と参加者の情熱で悪天候を克服しての観察会成功だと思っております。

私ごとで恐縮ですが、山には色々な出会いがあります。御池小屋で二十一年ぶりに仕事の仲間と再会出来たのも感激でした。また観察した花を記憶と図鑑を参照しましたら二十種類以上の種類を確認でき北岳が病みつきになりました。来年、都合を付け又、参加したいと思つて折ります。最後に、会員各位のご多幸とご活躍を祈念し、お礼のメッセージとします。

**観察会のお礼** 投稿者：三島市 Y 井  
七月一、二日のキタダケソウ観察会では大変お世話になりました。  
登山初心者のお私でしたが清水さん始めスタッフの方々のおかげで憧れのキタダケソウを見ることができました。行きも帰りも皆様の足をひっぱりに迷惑おかけしました。

主人は三十年間の念願が叶ったと上機嫌です。  
また機会がありましたら参加させていただけたいと思います。  
そのためにこれから体力作りに励みます。



世界的な希少種「キタダケソウ」



風雨の中感激のキタダケソウとの対面

## 北岳(白根岳)

### 低下改埋実施

参加者それぞれの感想特集

二〇〇四年、十月北岳の標高値が国土地理院の現地測量によって三一九二四m→三一九三二mに八十センチメートル高くなった。

この時にはすでに、山頂にあった三等三角点は長年の風雪雨により大部分が露出し、文字も風化され判別できない状態になっていた。周囲に置かれた岩石の支えがなければ自立できない程だった。高山の三角点は現在では学術的な価値よりも山のシンボルとしての存在が強く、山岳愛好者等により広く愛されている。このことを重く見た国土地理院は改埋事業に動き出した。芦安ファンクラブへの協力依頼は作業のみならず現地に適応した標石固定方法や資材調達を含めたものだった。

鉄杭や強度を計算したセメントや骨材、環境面を考慮した計画が会員によって準備された。三角点標石、盤石の運搬が協議の結果両侯分岐から背負上げることになった。明治三十七年七月、芦安から鮎差、荒川、北沢を詰め、稜線(尾根分岐)に出て山頂に運んだ先人の苦勞を少しでも共感しようとするものだった。

日時は百二年前のその日にこだわり七月七日〜九日に行われた。

参加者の熱い感想を特集として編集しました。

NPO法人芦安ファンクラブ様へ

国土地理院関東地方測量部

測量課長 古池健

前略

この度、北岳の三角点を復旧するにあたり、多大なご尽力を賜り、心より御礼申し上げます。

梅雨期にもかかわらず天候に恵まれ、本作業が順調に進み、あのような立派な三角点の埋設ができましたことは、何よりも皆様の北岳に対する熱いロマンの現れであるとともに、清水様のリーダーシップと芦安ファンクラブのチームワークの賜と感謝しております。また、作業当日はもとより、計画・準備をはじめ、日に見えないところで様々なお気使いやご苦勞をお掛けしたことを肌で感じるにつけ、感謝の言葉もありません。

本作業を通じて、芦安ファンクラブをはじめ南アルプス市民の皆様や市職員の皆様達と楽しく交流することができ、また、山梨日々新聞及びYBS放送で取り上げられ、三角点や国土地理院の存在を地元の人々に知っていただくことができました。まさに常日頃、測量行政推進の中で唱えております「啓発活動」が有効に実践できたものと嬉しく思っております。

今後は、測量課としましても、この北岳での経験を生かし、手つかずとなつていいる高山の三角点の復旧計画を立てるべく、取り組みたいと考えております。

末筆ながら、芦安ファンクラブと会員各位のますますのご発展を祈念いたしますとともに、皆様にくれぐれもよろしくお伝えくだされば幸いです。

追伸 つくば市にある「地図と測量の

科学館」の資料等を追ってお送りいたします。是非、筑波山ハイキングと絡めてお出かけ下さい。



### 芦安ファンクラブとの出会い

(北岳の三角点をつうじて)

国土地理院関東地方測量部  
木暮弘幸(きぐれひろゆき)

日本第二の高峰「北岳」へ登る話が職場で話された。(私は、その時「北岳」が日本第二の高峰とは、知らず、また、登るなどと予想もしていなかった。)話は、「北岳」にある三等三角点の柱石・盤石を交換し低下改埋を行うと言うものであった。

日が経ち話が進むにつれ、私が作業に参加することになった。私の「山」への思いは、「登りたくないでも頂上で見る景

色は最高」である。これは、過去に測量作業で「笠ヶ岳」に登った経験からである。

不安を持ちつつ「北岳」に向かったのが芦安ファンクラブの方々との出会いである。話を聞く中で芦安ファンクラブの方々は、「北岳」を恋人の様に愛し、また、三角点も同様に思っていて頂いていると強く感じたのは、私だけではないと思う。また、登山・下山では、何かと助けて頂き「北岳」の美しさに堪能できたのも芦安ファンクラブとの出会いがあったからと思う。干支の年(四回目)の忘れられない思い出となった。

最後に三等三角点「白根岳」は、芦安ファンクラブの方々、北岳を愛する登山者に見守れつつ、いつまでも「北岳の顔」であってほしいものである。

芦安ファンクラブには、公私にわたりお世話になりました。

『ありがとうございました』

### (国土地理院 針間さんのコメント)

清水さんを始め「芦安ファンクラブ」の皆様及び南アルプス市の協力により無事作業が終了し、ほっとしています。皆様の山に対する情熱には驚くばかりでした。私の「男の試練(山編)」はこの作業をもって終了しましたが、皆様と作業したことは一生の思い出になりました。南アルプス市の顔「北岳の三角点」白根岳」よ、みんなに愛され、後世までその存在を伝えてくれ。

### (国土地理院 高橋さんのコメント)

ファンクラブの方々の熱い思いが届いたのか、梅雨時にも関わらず天候にも恵まれ、順調に作業を終えることが出来

ました。

日頃何気なく取り扱っている三角点ですが、山のシンボルとして、こんなにも多くの人たちに愛されているのかと嬉しく思いました。

北岳の三角点が、これからも末永く大切にされていくことを願っています。

### 北岳三角点低下改埋事業への歩み

明治になって、日本は近代化に向けて欧米諸国から技術者を招いたり、留学生を送るなどして技術や文化の導入を急ぐと共に、国土全体を正確に知るための地図作成に乗り出しました。

明治八(一八七五)年から「関八州大三角測量」が始まって、一等三角測量に引き継がれ、この作業を担った陸軍参謀本部の陸地測量部の測量手たちは、時には命懸けで全国の山々に登り、選定された三角点の位置に標石を埋め、測標を建てて高精度の測量技術をもって国土の姿を次第に明らかにしていきました。

このようにして各山頂付近に埋められた三角点は、時を同じくして始まった近代登山のパイオニア達の道しるべとなり、登山者に与えた勇氣と安心感は計り知れないものがあつた測量登山の成果は、近代登山の発展に大きく貢献することになりました。

南アルプス北岳の三角点は、イギリスの宣教師W・ウェストンが鳳凰山のオベリスクを初登攀し、北岳、間ノ岳、仙丈ヶ岳に登山中の明治三十七(一九〇四)年七月七日、吉村武雄測量手によって造標され、九月十一日標高三一九二・三九と観測されました。

以来、この三角点は「日本第二の高山

の厳しい自然に懸命に耐え、数知れぬ登山者を励まし、登頂の証人としてその存在価値を示してきました。

平成一六(二〇〇四)年一〇月国土地理院は、三角点より八十m高い場所の存在を明らかにして北岳の標高を三一九三・一九に改めました。このとき三角点の標石は、長い時間の風化に晒され大部分が露出し附近の岩で固定して支えなければ転倒してしまう状況でした。



このことを知った多くの登山者や南アルプス市は、GPS測量が主流の現在、測量の基点としての役目は終わっても、その山のシンボルとして三角点の存在意義は大きいとして「改埋」を訴えました。

これを受けた国土地理院では南アルプス市と芦安ファンクラブに協力を要請し「百年経過しても変化のない三角点」を目標に「北岳三角点低下改埋事業」に乗り出し、約一年をかけて、立案、調査、具体的な作業内容等を検討し、平成十八(二〇〇六)年七月七日、九日の三日

間で事業を完成させました。

多くの人々の熱い想いに支えられ、百年の時空を超えてよみがえった新しい北岳の三角点は古い歴史の上にたち、南アルプスの未来に新しい光を投げかけていくことでしょう。

北岳山頂を百有余年守ってきた旧柱石及び盤石は、文化遺産として南アルプス芦山岳館に大切に保管展示されています。

南アルプス芦山岳館館長 塩沢 久仙

「北岳山頂三角点改埋作業に参加して」

南アルプス市観光課 横内久人

「三角点の改埋」という一大イベントは、とても思い出深く貴重な体験となりました。何せ七月に北岳へ登ることさえ初めてでしたので、皆様の足を引っ張ってはいけないという思いから、自主トレとして二十リットルのポリタンクを背負い、夜叉神峠および櫛形山を登っておいたのですが、その重さと歩みにくさは想像以上であり、六十キロという標柱はとも運べる代物ではないと感じながら当日を迎えました。

初日は天候にも恵まれ、初めて見る貴重な高山植物の数々や、肩の小屋付近の花畑が白・黄・紫の絶妙なバランスで咲き誇る様は圧巻で、まさに感動の連続でした。そして何より、写真では見ているもの実際に見ることは初めてだったキタダケソウ。やっと本物に出会えた喜びにとっても興奮し、何度もカメラのシャッターを切っていました。その様は一人のミーハーな観光客となっていたのだと思います。

一日目、いよいよ改埋作業当日。心配していた天気も雨に降られなかったのは

幸いでした。作業現場では二十キロのセメント・水等を運ぶ係を仰せつかったので、

すが、距離はそれほどでもなかったのですが、実はちょっと安心してしまいました。順調に作業を進め、いざ標柱を背負わせていただいた感想は、それまでとは違う重さ、また、足場も狭く落としてもいけないというプレッシャーから、ほんの数歩進ませていただいた程度で大満足というか限界でした。しかし、事業に参加させていただいているという実感が湧いてきたのを覚えています。

やがて作業の最終章、標柱前のプレートが埋まった瞬間。ようやく作業が終了した達成感と何とも言えない充実感でしばし放心状態でしたが、「北岳に登る時にはこの三角点に会える」という新たな目標ができたことで、「この山が私にとって特別な山になったのだと感じることができました。この歴史的な事業にお誘い頂いたことをとてもうれしく思い、また、そのメンバーに加われたことを誇りに思います。皆様おつかれさまでした。」



「北岳三角点改埋とは？」

そんな物が有る事も知らなかった。ましてや、六十kg以上もの石塊を担いで持ち上げたり造り直すなんて、正気の沙汰で無し。世間一般の感想と同じ気持ちで、それでもお祭り気分がワイワイ参加した。結論、楽しかった！

天気も良く、ブロッケン山の歓迎も有り最高の気分。ただ、セメント・水・砂利等を何回も何回も運んだ方々は大変だったと思う。御苦労様。それにしても、ファンクラブのメンバーの頑張りには感心を超えて驚きいっぱい。コワイモノ無しですネ。芦安ファンクラブ 清水 毅

「北岳三角点改埋工事」ご苦労様でした」

本当にお疲れ様でした。

この世紀の大工事に少しでも携わることが出来たら！という思いで参加させてもらったのに・・・役に立たないどころか、具合まで悪くなってしまう、ホントに情けないです。皆さんの足手まといにならずに、帰ってこれたのがせめてもの救いです。

風邪の方は皆さんに薬を頂いたりして早い手当てが効いたのか、

回復に向かっています。ご心配をお掛けして申し訳ありませんでした。

芦安ファンクラブ 花輪 初代

### 百年の浪漫

昨年、学校現場から市教育委員会にお世話になり、北岳夢倶楽部に入れていただいた。今まで教職員の世界しか知らなかった私にとって「新しい世界」が広がった。そしてこの四月より、芦安ファンクラブの会員にも加えていただいた。入会間もない身でありながら、千載一遇の

チャンスを得ることができた。百年に一度の「北岳三角点改埋作業」である。

亡父が林務部県有林課に勤務し、県内各地の山に登っていたことは知っていたが、私自身が初めて登山をしたのは三十歳を過ぎてから、櫛形中学校で学級登山の取り組みが開始されたことがきっかけだった。日帰りでは瑞がき山、乾徳山、編笠山、一泊二日では甲斐駒ヶ岳、北岳等の山にクラスの子と共にチャレンジした。中でも北岳は、草すべりの花々、肩の小屋から見た満天の星、頂上から眺めた雲海に浮かぶ富士等、驚きと感動の体験を数多く生徒にも私自身にも与えてくれた。

いろんな「縁」があつて北岳には、おそらく三十回近くは登っている。でも今回ほどわくわくした気持ちで山頂に向かったことはなかった。平成十八年七月八日、朝六時からの作業の中で私は中腹から山頂へ水、セメント、砂利を運ぶ役割をいただき、わずか数時間で十回以上も「山頂」に立つことができた。「みんな」の気持ちを通して、三角点設置完了の頃には「三一九三三」からの眺望も見事に広がっていた。

「三一九二二」の北岳の新たな顔を中心に撮った記念写真は、生涯私に「百年の浪漫」を感じさせることになるだろう。

芦安ファンクラブ 小田切 雅裕

### 三角点改埋事業に参加して

私の五十年の人生の中で北岳の山頂に立ったのは、七月八日改埋の日が初めてだった。山頂で見た一〇二年間風雪に耐えた三角点の標柱は、今にも倒れそうな姿で「長い間、ご苦労様でした」と言

う気持ちになった。

登山の経験がほとんど無かった私には一日目の肩の小屋までの道のりですら非常に遠いものに感じ、無事にたどり着けるのか不安だった。登る途中、清水さんの言葉が私を勇気づけてくれた。「山に登るのは、競争ではない。」という言葉だった。

二日目の作業は、三班に別れ行なった。私たちの班は荷揚げの作業、セメント、水、砂、砂利四〇〇キロを山頂に揚げる作業だった。背負子に二十五キロのセメントを括りつけ、担いで登るのは私の体力では少しきつく感じた。山頂での改埋の作業は全員で手際よく進んだ。また、市役所職員の若い二人の仕事ぶりはとてもすばらしく、感激した。

高い山の上では、作業に携わる一人一人が力を出しあって、荷揚げの苦労、水の無い不自由さを克服して初めて完遂できる事を身をもって感じた。それは、目標とした山の頂に立つ事の出来た者のみが味わうことのできる感慨と合い通じるものだろう。南アルプスのシンボル北岳に、皆の協力によって新しい三角点の改埋ができた事は勿論であるが、私たちを迎えてくれたキタダケソウ、突然現れたブロッケン、雨上がりの雲海の切れ間から見えた南アルプスの山々、肩の小屋からの下山道で出会った五羽の雷鳥の親子、その全てが私にとって一生の思い出になり、この事業とのめぐり合いに心から感謝している。里から遠く北岳を見るたび、この日の事を思い出さるだろう。これからも芦安ファンクラブを通じて多くの感動に出会いたい。

芦安ファンクラブ 依田 正

北岳三等三角点の改埋に参加して北岳の山頂に百年余り以前に埋められた三等三角点の標柱の埋め換え作業を国土地理院の方々と芦安ファンクラブの皆さんとで実施した。私の担当は山頂の手前にヘリコプターで降ろした資材〔鉄筋、セメント、砂、砂利、水、それぞれ二〇〜二十五kg余り、合計で四〇〇kg〕を山頂の現場まで運搬するという作業で、資材置き場と山頂を何回も往復した。その途中で両俣分岐から運ばれた標柱を私も背負い、よたよたと数mだが山頂に近付けることが出来た。六〇kgを背負ったのは三〇年振りの事で今でも背中がはつきりとその重さを覚えてい

る。資材を運び終え山頂の作業に合流したが、芦安ファンクラブの面々の生き生きとした仕事振りに手を出すことが出来なかつた。日本第二の高峰に皆の協力で新しい標柱が設置され、その地中に芦安ファンクラブ全員の名前が書かれたプレートが埋められ、また南側の表面には標柱改埋の説明のプレートがはめられ、三等三角点が完成した。これから幾度も北岳に登ることがあると思うが、山頂の三等三角点の標柱を見る度に、他の登山者には感じる事が出来無い秘密の喜びに思わずニタニタとしてしまいたい。有り難う、芦安ファンクラブ。有り難う、国土地理院。

芦安ファンクラブ 井口 功

北岳山頂三角点改埋へ参加して

七月七日は世間では七夕である。下界では七夕を迎え、若者が肩を寄せなが

ら街を歩いているというのに、我々は霧すさぶ北岳で七夕の夜をむかえている。天気が良からうが悪からうが七夕は毎年来ているし多分これからも来るだろう。しかし三角点改埋は我々が生きていく間に二度と来ない。なぜなら百年単位の事業だからだ。そんな歴史的瞬間に自分が立ち会えたことは非常に名誉であり、ある意味では大きな自慢だ。生きていく間一杯自慢するとしよう。

作業内容は「穴を掘って、標石を埋める」ただそれだけの事だが、その事が誰にでも出来ることではなく、許された者だけが出来る事である。北岳に穴を掘って標石を埋め、コンクリートで固めるなんて誰に出来るだろうか、我々芦安ファンクラブのメンバーだからこそ出来る事である。すでにここで自慢している。



新三角点は北岳の新しい顔

盤石と標石を背負子で背負って運ぶのだが、標石は六十キロという重さ、並みの人間ではいくらかも歩ける訳じゃない。メンバーが交代で背( )に肩を入れな

がら頂上へ背負い上げた。感動的瞬間を山頂に居た他の登山者と共に向かえた。

肩の小屋を出かける時は悪かった天気だが、四時間程の作業中には、時折周囲の山や青空が見える天候に回復し、神様も歴史的瞬間を見たかったのかも知れない。おかげでヘリも最後の荷を上げてくれた。

北岳に関係を持つようになってから、すでに二十七年になるが最高のイベントであった。

盤石の下にメンバーの名前を刻んだプレートを埋めたが、百数年後に親族や関係する誰かが、また三角点を改埋する事があるだろうかと思いつながら山頂を後にした。

登り同様標石運搬係になり、帰りも役目を終えた古い標石を背負って肩の小屋まで下ろした。成し遂げた後のせいか同じ標柱が軽く感じたのは私だけではない。なかつたことだろう。

「北岳の次は俺かな？」周りの山々も改埋を待っているかもしれない。次の改埋に備えて体を鍛えておこうと思えます。皆さんお疲れ様でした。

芦安ファンクラブ 伊井和美

#### 世紀を超えた頂上作戦

▼明治三十七年、日本陸軍参謀本部は新しい測量技術(三角点測量)により、甲斐の「白根岳」に三等三角点を設置して国土の確定地図を作製し現在に至っている。この三角点の柱石と盤石は以来百余年、国土地理院の基準点として、又、我々北岳を愛する登山者の登頂感慨の証言者としての役割を果たしてくれていた。



▼今回、柱石と磐石改理の頂上作戦は、二〇〇六年七月八日の午前六時四十分から霧寒い中で進められ、先ずは役目を終えた柱石と磐石を取り除く作業に取りかかりました、なんと、掘り進むと柱石と磐石の間から安政の通貨が出土したのです、地理院の測量技師は、柱石の水平確定に挟んだのではないかと教えてくれましたが私は、この通貨を掘り出した時、まさに甲斐の白根山頂で百年の昔を覗き見た感覚に捕らわれて、自分が今、振り上げているツルハシは平成山岳界の「錦の御旗」であると錯覚してしまいました。

▼頂上作戦は予定通り手際良く進んだものの、天候だけは、いかんともしたが、く、砂、バラス、セメントの不足分を捕う、ヘリの山頂荷揚げは難ぎしていましたが、霧が晴れた一瞬をパイロットは見逃さず山頂に不足分の荷を降下した、これぞ「甲斐の白根は神がかり」という表現がピッタリという場面であり、きつと神様は我々の百年事業に味方してくれたのだと、自分勝手に解釈したのでありました。

▼そう言えば、源平合戦で敗れた平家の総大将(平重衡)が鎌倉へ護送される途中、東海道で、北に遠ざかって雪白き山を、お供の者に問い「甲斐の白根」と聞き、落つる涙を抑えた、と平家物語が現在に伝えている、我々は今、平成の時代に「甲斐の白根」で世紀を超えての頂上作戦が成功した事に大きな意義を感じ、益々「雪白き山」に愛を深める芦安ファンクラブであった。

▼歴史を遡って、戦国時代あの時に郷土の英雄「武田信玄公」が源氏の総大将と

して天下を制し、いたならば、雪白き山

「甲斐の白根」は、遠の昔に世界遺産に登録されていたのかな？と幻想が心をよぎりましたが、完成した三角点柱石「白根岳」をみて、今後に期待しました。

芦安ファンクラブ 渡辺典美

四十三名のプレート

日本第2位の高山北岳山頂の三角点「白根岳」の改理という歴史的事業に参加できたのは、一生の思い出になります。

しかも、私のような凡人が六〇kg超の標柱を背負えたことは自信につながり、自分の名前の刻印されたプレートを盤石の下に埋設していただき、分身が北岳に眠っているような気がします。

三班に分かれて仕事を分担したが、私は、両俣分岐から頂上へ標柱を運ぶ班になり幸運でした。然し、いざ背負うことになった時、清水准一さんとたった二人しかいない事に気づきあせりましたが、何とか責任が果たせました。

芦安ファンクラブの会員四十三名の氏名を刻んだプレートが埋められた時には感動を覚えました。この数字には縁があります、旧中富の曙中学卒業時の同級生が四十三人、今の仕事に就職したのが昭和四十三年でした。

肩の小屋での前夜祭では、いささか過ぎてしまい、朝目が覚めたら遭難してしまいました。また、翌日の昼からの祝賀会でも飲み過ぎで、どうやら標柱を背負ったり飲み過ぎたりで、実力以上の力を発揮してしまい、深く反省しています。輝く北岳と山頂三角点に乾杯。

芦安ファンクラブ 望月泰孝

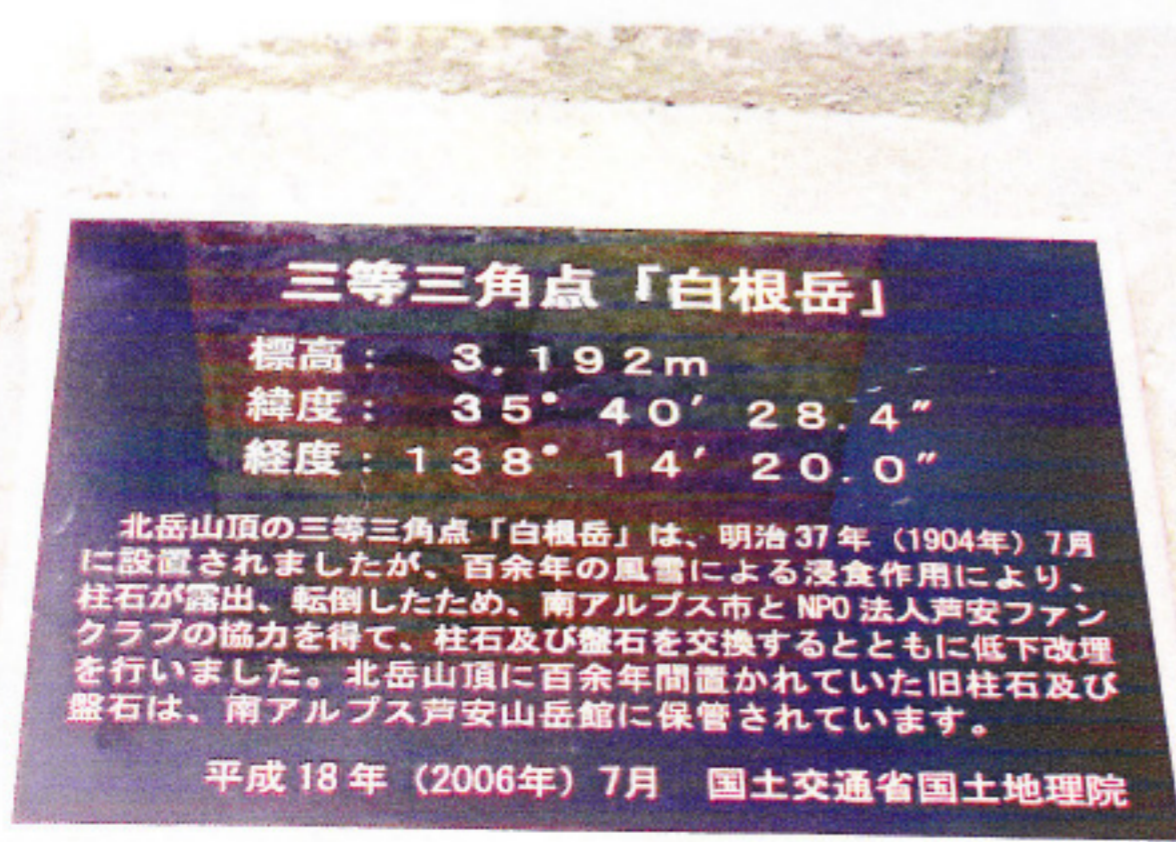
改理事業にみた!

芦安ファンクラブの素晴らしさを痛感

この度の北岳(白根岳)三等三角点改理事業は約三ヶ月の準備の後、国土地理院四名、芦安ファンクラブ会員二十数名、南アルプス市職員二名により七月七日〜七月九日の三日間をかけて実施しました。一〇二年ぶりの低下改理という記念すべき事業に私共芦安ファンクラブが関わったことは大変名誉な事であり、異例とも言えるご配慮をいただいた国土地理院には心よりお礼を申し上げます。

この地域の先人の足跡をかいま見る時、他に譲れないという自負がそれぞれの会員の心を躍動させ、歴史のロマンを感じた会員各自のその作業に感動すら覚え、改めてこの組織のすばらしさを再確認できた事業でもありました。またこの事業が南アルプス市の全面的な後援のもと、最後まであきらめずに空輸に挑み、結果、全ての荷揚げが出来たことは改理完成の大きな要因でした。使用する工具や楽しい滞在に気配りをいただいた肩ノ小屋の皆さん有難うございました。多くの方々のご理解とご協力で完成した新しい「北岳の顔、新三角点」をこれからも私共地元の家として大切にしていきたいと思えます。

芦安ファンクラブ 清水准一



設置された山頂の解説プレート



下げた旧標石、盤石は南アルプス芦安山岳館に展示中です

# さわやか四国旅行記

平成十八年五月三日～五日

参加者 塩沢裕子、望月泰孝外4名

深田久弥の日本百名山を目指している人に誘われ、四国の石鎚山、剣山及び滋賀と岐阜県境の伊吹山へ旅行した。

《石鎚山一九七四》五月二日夜八時甲府発、高速度道路を乗り継ぎ、本四連絡橋しまなみ街道を渡り西条インターで降りて、石鎚山登山口の山麓下谷駅に翌朝六時前に着いた。距離約七百八十km、所要時間九時間半。ロープウェイの始発七時四十分を待つ間朝食を食べ準備。

ロープウェイは、距離一八一五、標高差約一三〇〇、所要時間は八分余りで標高一四五〇の山頂成就駅に着く。この先にはスキー場がある。

成就神社にお参り後出発、登山道はいきなり1kmの下りで拍子抜けしてしまふ。道脇の原生林に大木が何本か倒れていた、下りきった辺りが夜明峠でミツバツツジとアケボノツツジが彩りを添える。目指す石鎚山への尾根に鎖場毎に小屋のようなものが見える。

試しの鎖は74段もあるが傾斜はあまりない、つなぎ目の輪に靴が入る程太い鎖で出来ている。左に巻き道があり3人はそちらのルートを探った。登りきると岩峰の上で裏側に一〇段下の鎖があった、巻き道のメンバーは先に着いていた。

一の鎖は三十三段で、ここは全員が登った、いずれの鎖場も上下用があり巻き道もあるが、下りで鎖場を使う人は殆どないようだ。

一の鎖は六十五段あり一の鎖より傾斜もきつい、技術的には難しくはないが腕力を使う。

三の鎖は六十八段あって傾斜が更にきつく、かぶり気味の部分もあり腕力で登りきり頂上に着くと、巻き道の方が早く頂上に到着していた。

快晴無風で若干霞んでいたが、三六〇度の展望が得られた、四国もこんなに山が多いかと改めて感じた。頂上の神社の前で、白装束の三名が一心不乱に読経する姿が印象的だった。小綺麗な頂上の小屋は土産品などを売っていて軽食もある。頂上から切り立った天狗岳(一九八二)を往復した。

下りは、鎖場は避けてよく整備された巻き道を利用した。夜明峠から沢の道に入ったが、所々荒れていて思ったより距離が長く時間もかかった、然し、巨岩が林立する岩原の景観、素晴らしい溪谷美を堪能できた、途中で収穫したワサビを湯がいて食べたら大変美味しかった。

移動の時、山全体がピンク色のアケボノツツジに染まって美しかった、なお、このツツジは、徳島、剣山への香川の山には見られなかった。

前日一睡もしなかったので頬がこけていて、ビールジョッキ2杯で爆睡。

《剣山一九五五》剣山は、日本三大秘境と言われる徳島県東祖谷山村(今年三月、池田町等と合併して三好市となった)、美馬市、那賀町にある。旧東祖谷山村と西祖谷山村は、平成五年の東四国国体の山岳競技の会場で、私は監督として訪れて以来である、かずら橋、大歩危、小歩危などが有名、当時、山奥の学校に、ひなにもまれな美人の先生が印象に残っている。ソバ粥が美味しかった。山間急峻な土地に部落が点在し、通が狭い為か軽四輪車が多かった。また、庭先に車の乗り入れが不能で対岸から架線で生活物資を運搬している家も見られた。静かで自然豊かな地に私は好感を覚えた。

標高一四二〇の山の越駈から登山用リフトを利用する、標高差三三〇、距離八三〇を約十五分の空中散歩である。終点の西島駅は標高一七五〇で、ここから四〇分程度で頂上に立てる。

頂上のお花畑に木道が設置されている、残念ながら花の季節には早すぎたが、大勢の人で賑わっていた、この日も快晴無風で素晴らしい連山の展望をほいままにした。

んを食べた、この辺りのうどん屋は、どこも本家とか元祖とかの看板を出している。

翌朝、栗林公園を散策して四国を後にし、大鳴門橋、明石海峡大橋を経由して本州に戻った。

《伊吹山一三七七》四国の帰りに、関ヶ原で降りて、伊吹山に立ち寄った、ドライブウェイが頂上直下まで続き、駐車場から約四〇分で頂上に至る。所々に雪渓があり盛んに融けだしていた。

イブキジャコウソウ、イブキトラノオなど伊吹の名を冠した植物があるほど植物の宝庫であるが、雪解け直後のためショウジョウバカマの花が目につく程度だった。

今回の山に共通するのは、何れも山頂近くまでのアクセスが整備され、多くの人が利用していることだ、そして自然が守られている、やり方によっては、多くの人に自然の素晴らしさとか偉大さを感じて融合する方法があると感じた。

芦安ファンクラブ 望月 泰孝



天狗岳への岩稜と周囲の山々



雪解けを待つ咲き出すショウジョウバカマ

# 芦安中学校の皆さんとの思い出

この七月、縁あって芦安中学校の生徒さんたちと一泊二日で鳳凰へ行く事になった。そこにどんな出会いが待っているのだろうか、どんな世界が待っているのだろうか、と期待と不安が渦巻く中、出発の朝を迎えた。

朝六時五十分、集まってきた人数を見て「これだけ？」と、ちょっと面食らってしまった。総勢三十七名。生徒の数より引率者の数の方が多いくらいだ。緊張した面持ちをしているのは私くらいで、皆リラックスした顔をしている。顔見知りだというだけでなくお互いをよく知っているという感じである。

出発式を学校で済ませてから車に乗り込み夜叉神峠登山口へ向かう。登山口へ着くと、指導者として同行する芦安ファンクラブの清水准一さんが大きなスイカを二つ背負子に担いできた。子供たちとの約束だという。たつぷりと汗をかいた後に、冷えたスイカを頂くのはさぞかし美味しかろうと期待が膨らむ。清水さんを先頭に三年、二年、一年、その間に引率者が入るといふ隊列で南御室小屋までの五時間半の長い道のりが始まった。登山道はよく整備されていて歩き易いが、歩き始めの苦しさに十年前の苦しい思い出が甦る。

あれは次男が中学一年の時、やはり学校行事の一環として旧河口湖町にある浅間神社登山口から三ツ峠山頂へ登った時のことだ。生徒数百十余名、引率者十二名程があいにくの曇り空の中神社の裏手から登り始めた。折しもオウム事件が世間を騒がせている中、麻原彰晃の逮捕成るか？という日

だった。思い出したのはこれだけである。それと苦しかったこと。一緒に同行した父兄たちと言葉を交わす余裕も無く必死になってついて行っただけだ。ただただ苦しかったという思い出だけである。

その私が芦安の子供たちと一緒に鳳凰を目指して歩いている。十年前には鳳凰という名前すら知らなかったというのに。あの頃の私は登山の経験など全く無く、山にも花にも興味が無かった。があるきっかけで三年前から山に登るようになった。おかしな事に興味を持ち始めると今まで見向きもしなかった山の名前を知りたがったり、花の名前も覚えようとして図鑑と睨めっこするなど、少しずつ自分の世界が変わっていった。

れ「しっかり」と舌を掛けている。後ろからは一、二年生、陽気な笑い声やしりとりゲームなどの声が聞こえてくる。山の中に花を見つけるとそれを知らせようと輪唱がこだまする。いつの間にか十年前の辛い思い出はこだまにかき消される。清水さんの重い荷物を、男子に順番に担いでもらうという提案に、誰からも不平の声は上がらず、それどころか自分の番になると回りから拍手喝采が沸き起こり、子供たちの顔は少し自慢げでさえある。子供たちの素直な心に、初めは馴染めないのでは？と懸念していた気持ちも徐々にほぐれてくる。ポツリポツリと子供たちと会話も出来るようになった。

ぎるくらい世話を焼くお母さんについても笑顔で答えていたサッチャー。そして元気で明るい一、二年生。みんなの子もいい子ばかり。皆が気持ちを一つにして運んだスイカは、きっと甘くて美味しかったことだろう。

次の朝、そんな子供たちに鳳凰は優しくあった。朝焼け、日の出、鳳凰から晴天という最高のプレゼントを貰い、みんな笑顔で観音岳の頂上に立つことが出来た。私も忘れられない思い出を子供たちから貰った。芦安中学校の皆さん本当にありがとう。

芦安ファンクラブ 花輪 初代



日本庭園を思わせる鳳凰稜線と遠くに浮かぶ富士



みんな、観音岳の山頂で満足そう。

私は三年生とその父兄の後について歩き出した。私の前を歩いているのは三年女子の母親である。娘さんが苦しさに耐えかねて歩みを休める度に、「がんば

クールでいつもマイペースだけど優しいゲンちゃん、中学を卒業したらブラジルへ渡り農業の勉強をするんだと熱く夢を語ってくれたトシくん、過保護す

# 学んで登ろう 秋の登山教室

みんなで楽しみながら学んで、登って、山の素晴らしさを実感しましょう。

☆

- ◇ 日 時 / 2006年 9月30日(土) 午後 ~10 / 1日(日)
- ◇ 会 場 / 研修場所 南アルプス芦安山岳館 TEL 055-288-2125 FAX 055-288-2162
- ◇ 宿泊場所 / 芦安地域内ペンション及び民宿・旅館
- ◇ 研修山名 / ☆ 栗沢山(2714m) 初心者コース  
南アルプス北部一級ビューポイントとして定評の有るこの山は、周囲の3,000mクラスの山々のど真ん中に位置し、特にここからの甲斐駒ヶ岳の姿は圧巻です。  
☆ 仙丈岳(3032.7m) 中級者コース  
南アルプスの中では優雅な山容と豊富な高山植物で人気があり、稜線からの霊峰「富士」と秀峰「北岳」が居並ぶ姿はここでしか眺められない。
- ◇ 参加条件 / 健康で登山が可能な方  
/ 登山研修(山登り)のみの参加は受け付けていません。
- ◇ 参加費 / ￥19,000 / 1人(宿泊費、食費、研修費、村内の移動費、保険料を含む)  
予約金は不要ですが最終〆切以後の欠席はキャンセル料￥5000をいただきます。  
/ 研修会のみ参加 ￥2000 / 1人
- ◇ 定 員 / 50名(先着順)とさせていただきます。
- ◇ 最終〆切 / 平成12年 9月22日

## ☆申し込み方法

電話又は官製はがきで下記の事を明示してお申し込み下さい。

- ① 住所、氏名、年齢、電話番号。
- ② 登山経験のある方は「登った山の事など」
- ③ 健康状態や気になる事

## ☆申し込み・問い合わせ

南アルプス芦安山岳館  
山梨県南アルプス市芦安芦倉1570番地  
TEL 055(288)2125 FAX 055(288)2162

## ☆研修スケジュール

1日目 9/30(土)

- \* 受付 12:30~13:15
  - \* 開会セレモニー 13:15~14:00  
開会式、夜叉神太鼓演奏(芦安中学校生徒による) 予定、オリエンテーション
  - \* 研 修 14:00~17:30
- |           |        |
|-----------|--------|
| タイトル      | 講師氏名   |
| ① 森林雑学    | 学識経験者  |
| ② 山梨百名山の話 | 深沢 健三氏 |
- \* 移 動 (南アルプス芦安山岳館~宿泊場所)、入浴 18:00~19:30
  - \* 夕 食 19:30~21:00

2日目 10/1(日)

- \* 登山研修 5:00~16:30 (4:00起床、朝食は出発前に済ませます)  
宿泊場所出発(マイクロバスにて)(5:00) → 広河原(6:00) → 北沢峠(6:30)
- ◎ 栗沢山(2714m) 初心者コース  
北沢峠出発(7:00) → 仙水峠(8:20) → 栗沢山2714m(11:30)~(13:00)  
→ 北沢峠着(14:40) 設定時間はあくまでも予定です。
- ◎ 仙丈岳(3032.7m) 中級者コース  
北沢峠出発(7:00) → 5合目(9:00) → 小仙丈岳2855m(10:00) → 仙丈岳  
3032.7m(11:30)~(12:00) → 馬の背 → 藪沢小屋 → 5合目(13:30) →  
北沢峠着(15:00) 北沢峠発(15:10) → 広河原(15:40)  
設定時間はあくまでも予定です。
- \* 閉会セレモニー (広河原山荘) 16:00~16:30  
終了式(研修修了証書授与、限定記念品贈呈)  
閉会式終了後 マイクロバス → 宿泊場所(17:30) その後自由解散